

《第 511 回(2024 年 3 月 14 日) 子どもの本の読書会記録》参加者: 8 人

時間: 10:00~11:30 場所: オーテピア 4 階集会室

ヨシタケ シンスケさんを読む

3 月は「ヨシタケ シンスケさんを読む」をテーマに、参加者各自が、ヨシタケ シンスケさんの著作の中から、おすすめ本を紹介しました。ヨシタケ シンスケさんは絵本作家、イラストレーターとして活躍されており、絵本や児童書だけでなく、一般向けのエッセイや対談集などの作品もあります。

次に、読書会に参加した方のおすすめ本を紹介します。

●おすすめ本は、『にげてさがして』(赤ちゃんとママ社)。もっと若いときにこの本に合えていたら楽だったのに、と思ったが、今の自分にも必要な本。想像力がない人は他人を傷つける、そんな人から逃げるために足はある、と書かれており、こういう考え方もあると教えられた。悩みが尽きない私たちの救いになる。今すぐに行動しなくても、時折読んで、そっと置いておくだけでもいい。

●おすすめ本は、『りんごかもしれない』(ブロンズ新社)。ヨシタケワールドは、哲学的なことを、かわいらしく伝えられる。『りんごかもしれない』は、ひとつの物をあらゆる角度から見ている。自分のいる世界の見え方はこれだけじゃないと、子どもも大人もわくわくする。飛び出す絵本のように。「かもしれない」との問いかけで、楽しみながら、ぐるぐると考え続けることができる。

●おすすめ本は、『ぼくはいついどこにいるんだ』(ブロンズ新社)。地図を書くのが上手な人とそうじゃない人がいるということに気づき、いろんな地図を考える。人間関係の地図、気持ちの地図。「ぼくのみらいのちず」、「きょうのきもちのちず」など、地図でいろんなことを表すことが新鮮だった。最初と最後の見返しも含めて読んで欲しい。地図に対する知識を深めるストーリー。ヨシタケシンスケの力量だと思う。

●おすすめ本は、『あつかったらぬげばいい』(白泉社)。タイトルのとおりで、生きづらい世の中だからこそ、単純な考え方が大切。シンプルだからこそ、子どもたちにも伝わる。強制ではなく、選択肢を示してくれる。考えるきっかけを与えてくれて、答えは自分で探す。柔軟にしなやかに生きるヒントをくれる、中高生にもおすすめの本。

●おすすめ本は、『思わず考えちゃう』(新潮社)。ヨシタケシンスケが日常で書いたスケッチについて話をする本で、イラストも面白く、ここまで言ってくれるんだ、という思い。それが人生、子育てがまさにそれ、といったことがヨシタケ流に書かれている。多少ずるいことをしてもいいよね、許してくれるよねと、ホッとす。

●おすすめ本は、『あんなにあんなに』(ポプラ社)。この本を読んで思ったのは、時間は平面に続いているということ。過去・現在・未来が平面に続いているので、「あのとき、こうすればよかった」と思っても、それは悔いではなく、今の自分が思っていること。最後の「あんなにいとおしかったのに」というところで、共感とともに、自分の子どもの真面目な姿を思い出した。

●おすすめ本は、『にげてさがして』(赤ちゃんとママ社)。今まで苦手だったヨシタケシンスケの本のなかで、初めてストンと入ってきた。逃げることを前向きに明るく捉えていて、逃げるだけでなく、自分で探すことの大切さが描かれている。動き続ければ自分をわかってくれる人に出会える、と希望を感じた。子どもも大人も前向きな気持ちになれる。

●おすすめ本は、『みえるとかみえないとか』(アリス館)。ぼくは宇宙飛行士で、目が三つある人の星に行くと「後ろが見えないなんてかわいそう」と言われる。誰でもその人にしかわからない世界の感じ方がある。そして、感じ方が違って、同じところは必ずあるはず。同じところを探しながら違うところを面白がれば、との多様性についての考え方が、押しつけがましくなく、楽しく描かれている。

次回 4 月 11 日(木)10:00~11:30 オーテピア 4 階集会室

□『世界を動かした塩の物語』 マーク・カーランスキー/文, S.D.シンドラー/絵, 遠藤育枝/訳 BL 出版

※申込み・参加費は不要です。